

平成維新東京の活動の方向性について（最終回）

平成維新東京・副代表 山崎康彦

昨年の11月より4回にわたって書かせていただきましたこのテーマも今回で最終とし、問題点のまとめをして、解決に向けた具体的な行動を提起したいと思います。

【1】神話の崩壊

戦後50年の間に、かつての成功神話がもはや通用しない状態となっています。問題は、神話の崩壊にも拘わらず、あくまでも成功体験を引きずって色褪せた神話を必死で守ろうと思っている人が居る事よりも、神話の崩壊と改革の必要性を言葉とポーズだけで人目を引き、改革に命を掛けているように見せて実は表面的な改革でお茶を濁して既存の利害や体質を温存してしまう政治家に、国民が騙され改革が中途半端に終わってしまう事です。橋本首相のパフォーマンスに騙されてはいけません。

(1)政治家の神話

しっかりとした世界観と倫理感を持った清廉潔白な政治家が、かつてはありましたが、現在の政治家の多くは、永田町で盡く個別利害の代表でしかない族議員に成り下がっています。

(2)官僚の神話

世界に冠たる清貧で優秀な官僚が戦後日本の復興に大いに寄与した事は、衆目認める所ですが、現在の官僚は、行政の情報を独占し、政治家と業者と癒着し、出世と天下りと接待と金品授与にしか興味の無い、汚職官僚に成り下がってしまった者が多い。

(3)日本企業の神話

高度成長を支えた世界に誇る先端技術は、実は高度なマスコ技術でしかなく、通信・半導体・コンピュータソフト・バイオ技術・投資運用技術（デリバティブ）等の独創性を要求するハイパー技術は、欧米に大幅に遅れをとっている。現在、ほとんどの日本企業は、国の保護政策による日本国内マーケットで大幅な利益を挙げる

“国内マーケット優良企業”でしかなく、同じ条件で国際的に競争出来る“国際優良企業”は数える程しか無いのが現状である。

(4)教育と就職神話

数年間の過酷な受験競争を我慢し勝ち抜けば、良い学校に入れ、良い企業に就職出来、豊かなサラリーマン生活が定年迄保証されるという神話は、もはや通用しない。

学校教育では、陰湿ないじめや登校拒否が発生し、

有効な手だてを見つけられないでおり、又政治や社会や歴史や他人の運命に関心を示さず、ブランド品やお金やアイドルにしか興味を示さない青少年を大量に生み出している。家庭内では、親の権威が失墜し、世界でも類の無い援助交際と言う中高女子生徒の売春を世間が黙認する異常事態を招いている。

他方企業側では、世界レベルでの競争の激化と長期の不況から、賃金体系を年功序列賃金から実績配分賃金へ変更し、雇用制度を終身雇用から年俸契約へシフトしてきている。実績を作れない人材は、容赦無く切り捨てられる欧米型の雇用状況となりつつある。

(5)土地神話

戦後日本経済の驚異的高度成長を支えた柱の一つである、土地本位制度は、土地を保有していれば資産価値が必ず上がると言う神話であり、1991年よりのバブルの大崩壊で完全に崩れた。

土地は、本来その土地を活用していかなる価値を創造するかによって価格が決定されるのであり、保有しているだけで価格が永遠に上がると信じ込んだ事は、国策として信じ込ませた政府・行政・企業・マスコミ・評論家の責任も当然乍らあるが、基本的な所を見誤って共に踊った我々国民の責任も大いにあると思います。一億総不動産屋の熱病に踊った人も多いのでは無いでしょうか。

【2】日本の盛衰の分水嶺

以上の5つの神話がことごとく崩壊した現在、世界的規模で変動する現実世界に新しく対応するシステムを作る必要があり、特に政治、行政のあり方を構造的に一挙に改革する事が、21世紀の日本の盛衰を決定すると思います。余り時間は残っておりませんが、そのことを本当の危機感を持って、まじめに考え行動する政治家、官僚、企業家、ジャーナリスト等の皆さんと連携しながら運動をする必要が有ると思います。

漠然とした不安や危機感は相当数の国民が感じています、残念ながら解決に向かって行動・発言する人は、未だ少数にとどまっています。しかしながら、問題が先送りされ、事態が何ら改善されなければ、幾ら我慢強い日本国民も、早晚問題に気が付き、立ち上がるのではないのでしょうか！我々先見的市民は、個別利害にとらわれることなく、改革のイニシアチブを取る必要が出てきています。